

1 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

週に4時間、希望制「習熟度別少人数クラス」を実施し、「数学の基礎学力の定着とよりきめ細かな指導」、「自分から進んで学習に打ち込む生徒の育成」を目指します。一人ひとりの生徒の実態に応じて、より細かな指導を行うことにより、全ての生徒が毎時間の授業で「分かった」という経験を実感して、学習効果とともに学習意欲の向上を図ります。学習内容は、まず正負の数を理解することから始まり、文字式、方程式、比例・反比例、データの活用を扱っていきます。この一年で中学の数学の基礎・基本を学習するので、日常的に学習したことを振り返りながら、しっかりと学習内容を身に付けることをねらいとします。また、通常の授業とは別に、放課後補充教室、夏季補充教室を通して、既習事項の確認、計算力の充実を図っていきます。どの単元においても、知識・技能を身に付けると共に、自ら考え、判断・表現する力、さらに、それらを生かし、主体的に学習に取り組む態度を養っていくことも目標としていきます。年度当初は、小学校での結果を参考に希望を出してもらいクラス編成を行います。今後はテスト終了後に申し出があれば変更していきます。

2 年間学習計画と単元の評価規準

学期	月	題材名・単元名	内 容	達成目標 (ねらい)
1	4	1章 正の数・負の数	<ul style="list-style-type: none"> 正の数・負の数 正の数・負の数の計算 	<ul style="list-style-type: none"> 負の数の意味を理解し、正の数・負の数の必要性と有用性を知る。 正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができるようになる。 四則計算の可能性について考察し、数の概念について理解を深める。 自然数を、それより小さい自然数の積で表すことができるようになる。 学んだことを生活や学習に生かし、問題解決の過程を振り返って検討できるようになる。
		1節 正の数・負の数 2節 加法・減法 3節 乗法・除法 4節 いろいろな計算 (単元テスト) (定期テスト)		
2	6	2章 文字の式	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った式 文字式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使って、数量や数量の関係などを式に表し、文字の必要性と意味を理解する。 文字を使った式の表し方を理解し、それに基づいて式に表したり、表された式の意味を読み取ったりして、文字の式の理解を深める。 簡単な一次式の四則計算ができるようになる。 学んだことを生活や学習に生かし、問題解決の過程を振り返って検討できるようになる。
		1節 文字を使った式 2節 文字式の計算 3節 文字式の利用 (定期テスト)		
3	9	3章 一次方程式	<ul style="list-style-type: none"> 方程式 一次方程式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 方程式とその解の意味について理解する。 等式の性質を見だし、それを利用して式を変形することで、方程式が解けることを知る。 一元一次方程式の解法を理解し、その解法に習熟する。 方程式を生活や学習に生かし、問題解決の過程を振り返って検討できるようになる。
		1節 方程式 2節 方程式の利用		
3	10	4章 比例と反比例	<ul style="list-style-type: none"> 関数 比例 反比例 比例・反比例の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 関数の意味を理解する。 具体的な事象の考察を通して、比例、反比例の意味を理解する。 座標の意味を理解する。 比例、反比例を表、式、グラフで表し、それらの特徴を理解する。 身近な事象から比例、反比例の関係を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考え、問題解決の過程を振り返って検討できるようになる。
		1節 比例 2節 反比例 3節 比例・反比例の利用 (定期テスト)		
3	11	5章 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> 直線と移動 基本の作図 作図の利用 円 	<ul style="list-style-type: none"> 直線、線分、角の意味や表し方を理解する。 図形の移動の意味と、その性質について理解する。 2つの図形がどのような移動で重なるか多様な方法で考えようとしている。 基本的な作図のしかたについて理解し、それを利用することができるようにする。 円についての基本的な用語の意味を知り、その表し方を理解する。
		1節 平面図形 2節 作図 3節 円		
3	12	6章 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> 立体と空間図形 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな立体や、その見取図、展開図、投影図についての観察、操作、実験を通して、立体についての理解を深める。
		1節 空間図形		

1 2 3	2節 立体の体積と表面積 (定期テスト)	<ul style="list-style-type: none"> おうぎ形の計量 立体の体積と表面積 	<ul style="list-style-type: none"> 空間における平面や直線の位置関係を理解する。 おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解し、弧の長さ、面積を求めることができる。 柱体の表面積、錐体や球の表面積や体積とその求め方について理解する。 見取り図、投影図、展開図を関連付けて、具体物を数学的に捉え、考察する。
	7章 データの活用 1節 データの整理とその活用 2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> 資料の傾向をつかみ説明しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解する。 ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明することができるようにする。 累積度数、相対度数について理解する。 起こりやすさを表す数の意味を理解する。 データの傾向を読み取り、考察することができる。
	総復習	復習問題演習	一年間で学習した内容を理解でき活用できる。

3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味を理解している。 定理・公式を理解し、利用した計算ができる。 例題の解法を理解し、問題を解くことができる。 法則を理解し、利用した計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 小テスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項をもとにして、問題の解法を考察し、表現することができる。 学習した事柄を具体的な場面で活用したり、説明したりすることができる。 学習した事柄を相互に関連付けてみるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト ノート（ワークシート） 単元ごとのレポート テスト直しレポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習した事柄について、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 学習した事柄を利用し、問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート（ワークシート） 単元ごとのレポート テスト直しレポート 学びの足跡

4 授業の取り組みについてのアドバイス

- 積極的に自分の考えを他の人に発表していけるようにしましょう。失敗することを恐れずに、自分の考えを発表してください。間違えてもそこから学びを得ることができます。
- 授業ごとに内容理解の確認を行っていきます。細かな積み重ねをしていきましょう。問題集や小テストを利用して、授業の復習を行ってください。
- 各学期にノートの提出もしてもらいます。授業中に配られたプリントは、ノートに貼っておきましょう。
- 「学びの足跡」を記入することで、自分の学習を振り返り、分からなかったこと、もっと知りたいことを明確にいきましょう。分からなかったことは、先生や友達に聞く、さらに自分で調べてみましょう。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- 復習を大切にしてください。授業が行われた日に必ず授業ポイントを復習してください。
- 分からなかったところは、そのままにせず、次の日に先生に聞いてください。質問等は歓迎します。
- 問題集を購入します。授業の進行に合わせて取り組んでください。内容を振り返り、間違えた所、できなかった所は繰り返し復習しましょう。提出日は守りましょう。

6 定期テスト・単元テスト前の取り組みについてのアドバイス

- まず教科書、ノートを見直しましょう。
- 日々の努力が一番大切です。小さな積み重ねが大きな成果を生みます。
- 問題集でできなかったところに印をつけるなどして自分の課題を明らかにし、テスト前までに分かるように繰り返し練習をしましょう。分からない所は、放課後補充教室や質問教室等で聞いて、復習をしましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

- 計算力を付けることが大切です。問題集や小テストを利用して、計算力をアップさせてください。できなかった問題、間違えた問題は、正解するまで繰り返し練習することが大切です。

- 多くの問題に取り組み、慣れることも必要です。
- 作図では、定規やコンパスをきちんと使用してかけるようになることが大切です。